

分科会名

特別活動

令和元年6月5日(水)

会場	川崎市立稗原小学校
助言者	川崎市立東高津小学校 校長 齊野 保史
	川崎市立宮前平小学校 教頭 大類 良知
	川崎市立上作延小学校 総括教諭 青木 洋俊
	川崎市総合教育センター 指導主事 高橋 徹
授業者	川崎市立稗原小学校 石川 徹 川口 靖子
	峯岡 みゆき 中野 通昌
司会者	川崎市立真福寺小学校 中村 浩太郎 川崎市立向丘小学校 門別 整
	川崎市立西梶ヶ谷小学校 本田 宏 川崎市立荻宿小学校 柴原 麻由
記録者	川崎市立東菅小学校 桜井 謙一 川崎市立麻生小学校 下村 智英
	川崎市立犬蔵小学校 漆島 太一
世話人	川崎市立宿河原小学校 岡本 香澄
出席者数	92名

1. 提案の概要

【1年生 学級活動(2) 題材「みんな なかよし まほうのことば」】

相手が喜ぶ言葉「ふわふわ言葉」について考え、どんな言葉を使うとみんなが仲よしになれるのかをロールプレイを通して話し合う。コーディネーターがT2として参加。

【3年生 学級活動(1) 議題「えがお 33(さんさん)集会をしよう」】

学級目標に向かって協力できるようになりたいという提案理由であった。宝探しの活動の工夫について「たから」と「さがす」の2点に分けて話し合いをした。

【6年生 学級活動(1) 議題「1年4組ともっと仲よくなるための集会をしよう」】

下級生から信頼される6年生を目指して話し合いを行った。柱を1本にして集会で何をどのようにするか話し合った。

2. 研究協議の概要

【1年生】

- 子ども達同士のロールプレイは感情移入をし過ぎてしまう恐れがあるので人形を使用した。目的をよりよい人間関係の構築にして今後のコミュニケーション能力の向上・定着のために行うことが大切である。
- どうすればみんなと仲よくなれるのかということ子ども達に問いかけ、意見を聞き、話し合いをしていくようにしたい。
- 板書に子ども達の考えやつぶやきが残っていることが望ましい。このつぶやきをもとにしてめあてを立てることにつなげていきたい。
- ワークシートの使い方についても十分に指導を行っていく必要がある。

【3年生】

- 少数派の意見を取り入れることも大事である。多数決によらない決め方も実践していく必要がある。
- 多様な意見が出てくるのは話し合いの経験の積み重ねによるものである。様々な意見を出すように普段から声かけをしていき、尊重していく姿勢をもちたい。
- 子供達のいきいきしている様子がよかった。工夫だから1つに決定しなくてもよい。いくつか決めてもよいと先生が授業中に何度も伝えているのがよかった。
- 事前に宝探しがどのようなものなのかルールの確認やイメージを共通理解しておく話し合いが深まったと思う。
- 賛成の理由が「楽しい」が多い。比べる段階では、意見の中で根拠や理由を出せるとよかった。
- 「自分が」を主語にするよりも「みんなが」を主語にして意見を言えるとよい。

【6年生】

- たくさん意見が出ていたのでまとめる力がもっと伸びていくようにしていきたい。そのためには方法を指導していくことも考えられる。遊びを2つ実施したり、1つに合体したり、1つをメインで実施して要素を取り入れるなどの工夫が考えられる。また、まとめる経験を積み重ねていくことも大切である。
- 自分の意見にこだわりがある児童に対しては、心の内に秘めている思いを教師が聞く姿勢をもつようにしたい。
- 話し合いでは常に提案理由やめあてに立ち返って進めていくことが望ましい。
- 意見が決まらない経験をすることも必要である。その際、振り返りをしてどうして決まらなかったのかを考えるようにしたい。次の話し合いでは成功できるように支援をしていく。

3. 指導講評

【1年生】

- 1年生の6月の段階で学級目標が教室内に掲示されていることは素晴らしい。
- 子ども達同士の温かい人間関係を形成することに力を入れていく必要がある。
- 川崎市は共生・共育プログラムを全校で実施しているが学級活動の時間とは別に6時間設定していくものである。
- アンケート結果については子ども達に理解しやすい形式にすることが望ましい。
- 学級活動（2）の実践はつかむ→さぐる→見つける→決めるという流れにしていく。その後、意思決定したことを実践していくことが重要である。
- ロールプレイでは子ども達のつぶやきを取り上げ、何に気づき、何を考え、どのようにしていけばよいかを話し合うようにすることが大切である。

【3年生】

- 司会グループがめあてを発表した。自然と拍手が起きている様子がクラスのよさにつながっている。
- 短冊を色分けすることで意見を整理しやすくなり、話し合いが円滑に進む。
- 話し合いの内容が分散してしまう場面があった。一つ一つ決めていくために先生が出て整理をしたほうがよい時もある。
- 話し合いでは議題がとても大切である。子ども達が本気で取り組みたいことを取り上げていきたい。
- 自分たちで決めたことを自分たちで実践していくことに喜びを感じられるはずである。そのことが次の話し合いの意欲へとつながる。この循環を継続していきたい。
- 多数決が絶対にいけないということではないが、意見を言い尽くすことで合意形成を図っていきたい。
- 先生は褒め上手、驚き上手、乗せ上手になってほしい。先生の投げかけで子どもたちは大きく変わる。

【6年生】

- 下級生からあこがれられる6年生を目指そうとして議題を選定しているのは大変素晴らしい。
- ほとんどの児童が発言できたことに価値があることを教師から伝えていきたい。
- 「遊びの数をどうするか。」「何をしていくのか。」など明確でないことは順番に1つずつはっきりさせていくことが重要である。
- 学級会は積み重ねていくことでよりよくなっていく。クラスや個人のめあてを達成できるように実践をしていくようにしたい。
- 学級会は合意形成を行う場である。全員が同じ考えになることは少ないが折り合いをつけていくことを経験していくようにしたい。